

## 《豊洲市場見学会報告》

平成30年に開場された豊洲市場は開場5年目を迎えました。従来の築地市場が老朽化・鉄道と海運を考慮した扇型作成されたが現在すべての搬送がトラック輸送となり構造が不適である・開放型の構造の衛生管理と温度管理が出来ない点等、多くの課題があったが開設80年を超えるため規模を2倍以上にして開場されました。

豊洲市場は環状2号線と都道315号線で7街区と5街区、6街区に分断されております。見学順は最初に7街区の水産卸売場棟で、密閉型のセリ場は気温10.5℃に設定されている様です。長い廊下を移動する壁には江戸時代から始まる



市場の歴史が解るパネルを見ながら移動するとマグロを並べるセリ場が見えて来ます。広い構内はセリ時には大量のマグロが並べられ気温も10.5℃に設定されており見学者デッキの先は一般魚のセリ場となり多様な水産物のセリが行われます。

次に5街区の青果棟の見学者デッキに移動は下にある仲卸店舗を見ながら移動し見学デッキには野菜で作られた千両船が展示されており窓の外にはセリ後移動前の商品が床にありセリ場の雰囲気を感じました。

た。

道路を渡り6街区に移動し物販店舗にある乾物・道具等売り場を見学しました。3F通路の窓から下を覗くと多くの魚類仲卸店舗が並んでおりました。最後は飲食店舗群ですが鮓、海鮮丼だけでなく天ぷら、フライ、和食やうなぎ、ラーメン、ハイカラ喫茶店や牛丼店も営業されておりました。6街区の屋上に「屋上緑化広場」がありそこからは旧オリンピック村や東京タワーが一望されます。



豊洲で現地解散後都バスで築地へ移動し築地をも楽しみました。移動後も活気と賑わいを継承するために中央区が「築地魚河岸」が60店舗開店した事とインバウンドを含め、食の観光地化が進み多くの観光客で賑わっておりました。



報告：比与森 賢実